



園だより

第3号 (平成29年9月発行)

文責 一新幼稚園長 山岡 喜美子

41日間の夏休みが明け、2学期が始まりました。夏休み前半は、野菜の世話や収穫を楽しもうと来園する親子の姿が見られて賑やかでしたが、後半は来園者が減っていき、子どもたちの声も聞かれなくなり寂しく思っていました。

9月1日、登園してきた子どもたちは、しばらく見ない間に、背が伸び、顔つきがしっかりしていました。園内に子どもの声が響き、幼稚園らしさが戻ってきました。2学期は、一年の中でも一番長く、様々な活動がたっぷり詰まった充実期です。子どもたちも保護者の皆様も、そして教師も、共に体に気を付けて楽しい2学期を過ごしましょう。

始業式では、子どもたちに守ってほしいことを2つ伝えました

始業式では、まず、みんな元気で登園し2学期を迎えたことを喜びました。そして、2学期を過ごすのに、みんなですべて守ってほしいことについて話しました。一つ目は、「9時までに登園しましょう」というきまりです。長い夏休みの間に崩れた生活のリズムを取り戻すために、みんなで約束しました。また、この生活の約束を掲示したところ、帰るときに読んでから門を出る姿が見られ、先週はほとんどの子どもが守ることができました。生活の約束は毎月替わりますので、玄関前に掲示するようにします。守ってほしいことの二つ目は、「命」です。

大正12年9月1日には関東大震災が起きていることから、始業式には地震時の身の守り方を子どもたちと確認することにしてあります。グラグラと揺れたら座って丸くなり、両手で後頭部を覆う姿勢をとることは知っているものの、実際に行くと後頭部の場所がそれぞれ違っていました。分かっているけど、非常時の訓練は繰り返していくことが大切なのだと思いました。



夏休み中、色々体験したのでね

「夏のカレンダー」を並べて見ている年中児→

始業式に子どもたちが持ってきた、それぞれの「夏のカレンダー」をもとに経験したことを楽しそうに話す子どもや、友達の話聞く中で「私もそこに行ったよ。」と共通の話題をきっかけに話し始める子どもがいました。各クラスに集まってきたカレンダーには、お家の方からの一言が書いてあったり、絵や写真やチケットが貼ってあったりして、子どもたちが様々な体験をしながら過ごした様子が分かりました。経験したことで一番多かったのは「夏祭り」、次に「花火」「海水浴」「祖父母宅宿泊」でした。市内の江津湖やプール、公共の施設(子ども文化会館・水の科学館・図書館・児童館等)やイベントや県外に出かけた子どももいました。もちろん、どこかに出かけなくても、親子で食事を作ったり夜の散歩をしたりして親子の触れ合いを工夫した家庭もありました。また、年中、年長児になると手伝いを頑張る子どももいて、特に、「洗濯ものをたたむ」「食器を片づける(洗う)」「靴を並べる」が多かったようです。夏休み中の豊かな体験に負けないよう幼稚園でも楽しい活動を展開していきたいと思えます。



楽しかったプール遊びが、8日で終わりました

プール終わりの日は、年少児から順に遊びました。年少児は、先生が「今日でおしまいです。もも組になったらまた遊ぼうね。」と話す。「まだ遊びたい。」と言ってなかなか上がろうとしませんでした。そこで、みんな一緒に「プールさんありがとう。また遊ぼうね。さようなら。」と言ってプールとお別れをすることができました。年中児は、みんなで走って流れを作ったり、フープをくぐったり、魚みたいにもぐったりして存分に遊びました。年長児は、最後に、自分ができるようになったことを披露し合いました。自信をもって泳ぐ姿も、先生の声援を受けながら苦手なことに挑戦しようとする姿も、子どもの頑張りが感じられました。



プールをもっとしたいと思う年少児

自分の遊び方を楽しむ年中児

全員で顔をつけたり、できることを披露したりする年長児

修復・新設されて、環境が整備されました

地震によって傾いた園庭の記念碑2体が修復され、西側隣家の解体工事により塀が撤去していた後にフェンスが新しくなりました。これで安心、安全に過ごせます。



一新校区老人会より、雑巾をたくさんいただきました

雨の中、3人の方が雑巾を、雑巾は大小2種類のサイズが作ってありました。

一針一針にこめられた地域の皆様の温かい心に感謝して大事に使いたいと思います。

